



URACからの情報提供（平成30年6月）

公募情報：URACからの情報提供の閲覧のお願い

本学TOPページ→研究・産官学連携 研究ポータルサイト内のニュースに、
外部からも確認できるように掲載されております。

(<http://www.rd.tuat.ac.jp/NEWS/index.html>)

先端産学連携研究推進センター

University Research Administration Center (URAC)

1) JST 未来社会創造事業 研究開発提案募集について

◆平成30年度公募領域

1. 「超スマート社会の実現」領域（運営統括：前田 章）【継続1テーマ、新規1テーマ】
2. 「持続可能な社会の実現」領域（運営統括：國枝 秀世）【継続2テーマ、新規1テーマ】
3. 「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中 健一）【継続2テーマ、新規1テーマ】
4. 「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域（運営統括：橋本 和仁）【継続1件】
5. 「共通基盤」領域 【新領域発足。新規1テーマ】

2) 特許法改正（平成30年度）のトピックス

発明の新規性喪失の例外規定の変更



未来社会創造事業 平成30年度 研究開発提案募集について

更新

公募期間：平成30年6月12日～平成30年7月31日（火）正午

未来社会創造事業における研究開発の特徴 (<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/about/index.html>)

- 5～10年程度、最大20億円程度（総額）の規模の研究開発を実施。
- 研究実施者は大学、企業、公的研究機関等。
- 実用化が可能かどうかを見極められる段階（概念実証：POC）を目標とし、研究成果を企業や社会に積極的に引き渡し。

◆平成30年度予定領域

1. 「[超スマート社会の実現](#)」領域（運営統括：前田 章）【継続1テーマ、**新規1テーマ**】
2. 「[持続可能な社会の実現](#)」領域（運営統括：國枝 秀世）【継続2テーマ、**新規1テーマ**】
3. 「[世界一の安全・安心社会の実現](#)」領域（運営統括：田中 健一）【継続2テーマ、**新規1テーマ**】
4. 「[地球規模課題である低炭素社会の実現](#)」領域（運営統括：橋本 和仁）【継続1件】

5. **共通基盤領域 新規領域として発足**

平成30年度テーマ「[革新的な知や製品を創出する共通基盤システム・装置の実現](#)」

平成30年度「未来社会創造事業」(探索加速型)

更新

● 未来社会創造事業(5領域)の重点公募テーマ「未来社会創造事業」 [Webページ](#)

◆ 平成30年度重点公募テーマ(既存重点公募テーマ6つ、新規テーマ3つ及び共通基盤技術領域の募集予定)

1. 「超スマート社会の実現」領域(運営統括:前田 章)

[1-1「多種・多様なコンポーネントを連携・協調させ、新たなサービスの創生を可能とするサービスプラットフォームの構築」](#)

(継続) (リンク先3-6ページ参照)

[1-2「サイバー世界とフィジカル世界を結ぶモデリングとAI \(H30新規\)」](#) (リンク先7-8ページ参照)

2. 「持続可能な社会の実現」領域(運営統括:國枝 秀世)

[2-1「新たな資源循環サイクルを可能とするものづくりプロセスの革新」](#) (継続) (リンク先3-8ページ参照)

[2-2「労働人口減少を克服する“社会活動寿命”の延伸と人の生産性を高める「知」の拡張の実現」](#) (継続) (リンク先9-13ページ参照)

[2-3「将来の環境変化に対応する革新的な食料生産技術の創出」](#) (H30新規) (リンク先14-15ページ参照)

3. 「世界一の安全・安心社会の実現」領域(運営統括:田中 健一)

[3-1「ひとりひとりに届く危機対応ナビゲーターの構築」](#) (継続) (リンク先3-6ページ参照)

[3-2「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」](#) (継続) (リンク先7-10ページ参照)

[3-3「生活環境に潜む微量な危険物から解放された安全・安心・快適なまちの実現」](#) (H30新規) (リンク先11-12ページ参照)

4. 「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域(運営統括:橋本 和仁)

[4-1「『ゲームチェンジングテクノロジー』による低炭素社会の実現」](#) (継続)

5. 「共通基盤」領域(運営統括:長我部 信行)

「革新的な知や製品を創出する共通基盤システム・装置の実現」 (H30新規領域として発足)

日時	都市	会場	定員	運営統括の登壇
2018年6月18日(月) 14:00-15:30	富山	富山大学五福キャンパス黒田講堂1階会議室 (富山市五福3190)	110名	(なし)
2018年6月19日(火) 14:00-15:30	岡山	岡山大学理学部大会議室 (岡山市北区津島中1-1-1)	100名	(なし)
2018年6月21日(木) 14:00-15:35	松本	信州大学松本キャンパス理学部C棟2階大会議室 ※各キャンパスにサテライト中継 (松本市旭3-1-1)	110名	(なし)
2018年6月22日(金) 14:00-15:30	仙台	TKPガーデンシティPREMIUM仙台東 ホール10A (仙台市宮城野区榴岡3-4-1アゼリアヒルズ)	140名	(なし)
2018年6月25日(月) 14:00-16:40	東京	JST東京本部別館1階ホール (千代田区五番町7 K's五番町)	160名	安全安心領域 共通基盤領域
2018年6月26日(火) 14:00-16:40	札幌	北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟1階セミナー室1 (札幌市北区北13条西8)	110名	持続可能領域 安全安心領域
2018年6月27日(水) 14:00-16:40	大阪	TKPガーデンシティ東梅田バンケット6A (大阪市北区曾根崎2-11-16梅田セントラルビル)	160名	超スマート領域 安全安心領域
2018年6月28日(木) 14:00-15:50	名古屋	TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線バンケットホール3A (名古屋市中村区椿町1-16井門名古屋ビル)	160名	持続可能領域
2018年6月30日(土) 14:00-16:40	東京	JST東京本部B1会議室 (千代田区四番町5-3サイエンスプラザ)	160名	超スマート領域 持続可能領域
2018年7月2日(月) 14:00-15:40	佐賀	佐賀大学本庄キャンパス理工学部6号館2階多目的セミナー室 (佐賀市本庄町1)	60名	(なし)
2018年7月3日(火) 14:00-15:30	福岡	TKP博多駅前シティセンターホールC (福岡市博多区博多駅前3-2-1日本生命博多駅前ビル)	140名	(なし)
2018年7月4日(水) 14:00-15:50	つくば	つくば国際会議場エポカル中ホール200 (つくば市竹園2-20-3)	200名	低炭素領域
2018年7月5日(木) 14:00-15:50	神戸	神戸大学瀧川記念学術交流会館 (神戸市灘区六甲台町1-1)	110名	共通基盤領域

平成30年度「未来社会創造事業」新規テーマ

1. 「超スマート社会の実現」領域（運営統括：前田 章）

【新規テーマ：サイバー世界とフィジカル世界を結ぶモデリングとAI】

Society5.0 で想定されているシステムやアプリケーションのための技術だけではなく、**複数分野に応用可能で、かつ異なる分野を結びつけることによって新たなイノベーションを生み出すための仕組み**としての位置づけを重視します。実現する新たな価値について具体的なユースケース例を念頭に置き、その到達のためのシナリオを描きつつ研究を推進します。

単なる技術提案だけではなく、それによってどんな社会的・経済的な価値が実現するかという具体的なユースケースとその社会実装シナリオを示す事が重要

- ① 対象に関する事前知識を活用して機械学習を高度化する技術
- ② 機械学習した深層ネットワークからモデリング/シミュレーションに活用できる知識を抽出する技術
- ③ 機械学習技術を適用してモデルパラメータだけでなくモデル構造を学習する技術

2. 「持続可能な社会の実現」領域（運営統括：國枝 秀世）

【新規テーマ：将来の環境変化に対応する革新的な食料生産技術の創出】

平成30年度は、**動物性たんぱく質の供給源である食料を対象に**、例えば以下のような食料生産に係る革新的な技術開発を中核に据え、それらが**社会・産業に受け入れられるための課題解決を含めた研究開発課題を募集**対象とします。

- ① 全く新しい方法による食料生産（例：再生医療技術を応用した食料の培養生産等）
- ② 食料生産の持続可能性の飛躍的な向上（例：魚油に全く頼らない海水魚の養殖等）
- ③ 食料生産の研究開発におけるボトルネックの斬新な解決法（例：育種の高速化を実現する再生産サイクルの短縮化等）

平成30年度「未来社会創造事業」新規テーマ

更新

3. 「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中 健一）

【新規テーマ：生活環境に潜む微量な危険物から解放された安全・安心・快適なまちの実現】

① 大気浄化：PM2.5等の除去、花粉症対策、季節性インフルエンザウイルスの流行抑制

PM2.5等の除去に加え、国民病である花粉症への対策や、季節性インフルエンザウイルスの流行を抑制する方法は、今なお課題が残っている研究領域である。

② 水環境：水質汚染対策、水質浄化技術に関する課題、河川や海に存在する薬剤耐性菌の蔓延防止

生活環境を考える上では、大気に加えて水環境も重要である。種々の水リスク低減についての取り組みの結果、我が国では誰もが安全な水にアクセスすることができる。一方で、東京湾では、水質に関する課題が改めて指摘され、その改善対策が推進されている。他の海水浴場、湖沼・河川の水浴場でも同様に水質汚染問題が指摘され、中長期的な水質浄化技術の研究開発を推進すべきと考えている。

水環境研究から、河川や海に薬剤耐性菌が存在しているという報告があり、薬剤耐性菌の蔓延を防ぐ手段のひとつとしても、今後ますます水質浄化技術は必要になってくると考えられる。

4. 「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域（運営統括：橋本 和仁）

既存のテーマのみ募集

5. 「共通基盤」領域（運営統括：長我部 信行）（H30度新規領域として発足）

「革新的な知や製品を創出する共通基盤システム・装置の実現」

募集期間：2018年6月12日（火）～2018年7月31日（火）午前12:00（正午）厳守



JST 未来社会創造事業（ハイリスク・ハイインパクトな研究開発の推進）

平成30年度予算額（案）：5,500百万円
 （平成29年度予算額）：3,000百万円
 ※運営費交付金中の推計額

背景・課題

- 知識や価値の創出プロセスが大きく変貌し、経済や社会の在り方、産業構造が急速に変化する大変革時代が到来。次々に生み出される新しい知識やアイデアが、組織や国の競争力を大きく左右し、いわゆるゲームチェンジが頻繁に起こることが想定。
- 過去の延長線上からは想定できないような価値やサービスを創出し、経済や社会に変革を起こしていくため、新しい試みに果敢に挑戦し、非連続なイノベーションを積極的に生み出すハイリスク・ハイインパクトな研究開発が急務。

※各国ともハイリスク・ハイインパクトな研究開発を重視
 ・ EU Horizon 2020
 約3,100億円/7年
 ・ 米国 DARPA
 約3,000億円/年
 等

【成長戦略等における記載】

※基礎からPOC（概念実証）まで一貫した支援を行うため、戦略的創造研究推進事業と連携して運用。

- 第5期科学技術基本計画『国は、各府省の研究開発プロジェクトにおいて、挑戦的（チャレンジング）な研究開発の推進に適した手法を普及拡大する。』
- 科学技術イノベーション総合戦略2017『未来社会創造事業により、社会・産業ニーズを踏まえ、（中略）実用化が可能かどうか見極められる段階を目指した研究開発を進める。』

事業概要

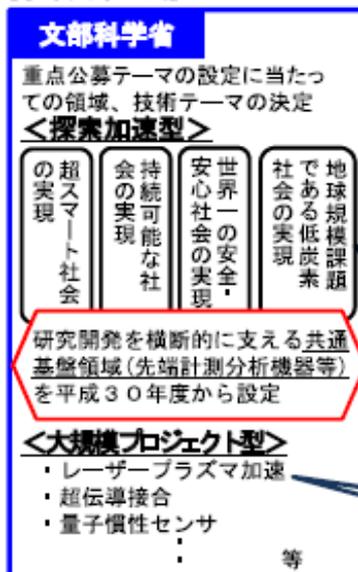
【事業の目的・目標】

- 社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲット（ハイインパクト）を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標（ハイリスク）を設定。
- 民間投資を誘発しつつ、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等から創出された多様な研究成果を活用し、実用化が可能かどうかを見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発を実施。

【事業概要・イメージ】

- **探索加速型**：国が定める領域を踏まえ、JSTが情報分析及び公募等によりテーマを検討。斬新なアイデアを絶え間なく取り入れる仕組みを導入した研究開発を実施。
- **大規模プロジェクト型**：科学技術イノベーションに関する情報を収集・分析し、現在の技術体系を変え、将来の基盤技術となる技術テーマを国が特定。当該技術に係る研究開発に集中的に投資。
- 柔軟かつ迅速な研究開発マネジメント：
 - ・ **スモールスタート**で、多くの斬新なアイデアの取り込み。
 - ・ **ステージゲート**による最適な課題の編成・集中投資で、成功へのインセンティブを高める。
 - ・ テーマの選定段階から**産業界が参画**。研究途上の段階でも積極的な橋渡しを図る（大規模プロジェクト型は、研究途上から企業の費用負担、民間投資の誘発を図る）。

【事業スキーム】



【これまでの成果】

- 1,000件を超える提案を踏まえて重点公募テーマ6件を決定。
- 技術テーマ3件を決定。

平成30年度予算案内訳

探索加速型 重点公募テーマ	既存 6テーマ分
	新規 5テーマ分
大規模プロジェクト型 技術テーマ	既存 3テーマ分
	新規 3テーマ分

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

【探索加速型】

「超スマート社会の実現」領域

運営統括：前田 章（元株式会社日立製作所 ICT事業統括本部技師長）

重点公募テーマ「多種・多様なコンポーネントを連携・協調させ、新たなサービスの創生を可能とするサービスプラットフォームの構築」

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
Synergic Mobilityの創出	河口 信夫	名古屋大学 未来社会創造機構 教授
シェアード・シティ・プラットフォームの構築	竹内 雄一郎	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 アソシエイトリサーチャー
機械・人間知とサイバー・物理世界の漸進融合プラットフォーム	田野 俊一	電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 教授・ 研究科長
構想駆動型社会システムマネジメントの確立	西村 秀和	慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
超スマートシティ・サービスマネジメント・プラットフォームの構築	林 泰弘	早稲田大学 理工学術院 教授
データ中心で異種システムを連携させるサービス基盤の構築	松塚 貴英	富士通株式会社 デジタルビジネス プラット フォーム事業本部 シニアマネージャ

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

【探索加速型】

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

「持続可能な社会の実現」領域

運営統括：國枝 秀世（名古屋大学 審議役）

重点公募テーマ「新たな資源循環サイクルを可能とするものづくりプロセスの革新」

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
製品ライフサイクル管理とそれを支える革新的解体技術開発による統合循環生産システムの構築	所 千晴	早稲田大学 理工学術院 教授
Pイノベーション創出技術開発	長坂 徹也	東北大学 工学研究科 副研究科長・教授
リマンを柱とする広域マルチバリュー循環の構築	松本 光崇	産業技術総合研究所 製造技術研究部門 主任研究員
革新的ハロゲン循環による材料の高資源化プロセスの開発	吉岡 敏明	東北大学 大学院環境科学研究科 教授

重点公募テーマ

「労働人口減少を克服する“社会活動寿命”の延伸と人の生産性を高める『知』の 拡張の実現」

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
学習アナリティクス基盤の拡張による多世代共創及び社会活動支援	木實 新一	九州大学 基幹教育院 教授
認知科学と制御工学の融合による知能化機械と人間の共生	鈴木 達也	名古屋大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻 教授
「知」の循環と拡張を加速する対話空間のメカニズムデザイン	谷口 忠大	立命館大学 情報理工学部 教授

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

【探索加速型】

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

運営統括：田中 健一（三菱電機株式会社 役員技監）

重点公募テーマ「ひとりひとりに届く危機対応ナビゲーターの構築」

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
マルチビュー画像計測技術によるエネルギー輸送インフラの安全・安心運用の実現	河野 行雄	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 准教授
スーパーセキュリティゲートの実現	木村 建次郎	神戸大学 大学院理学研究科 准教授
情報基盤と連携したリアルタイム救急・災害時支援システム	阪本 雄一郎	佐賀大学 救急医学講座 教授
個人及びグループの属性に適応する群集制御	西成 活裕	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
都市浸水リスクのリアルタイム予測・管理制御	古米 弘明	東京大学 工学系研究科 教授

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

【探索加速型】

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

運営統括：田中 健一（三菱電機株式会社 役員技監）

重点公募テーマ「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
健康寿命延伸のためのパーソナルライフケアICT基盤の創出	天野 良彦	信州大学 学術研究院（工学系） 教授
絶好調維持システムを目指した先制治療「ナノ・セラノスティクス」の実現	一柳 優子	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授
健康モデル化によるスマートインタラクティブサービス	貝原 俊也	神戸大学 大学院システム情報学研究科 教授
セルフデータ収集によるヘルス・セントリック社会の創出	洪 繁	慶應義塾大学 医学部 准教授
半導体バイオセンサ技術によるヘルスマニタリングサービスの実現	坂田 利弥	東京大学 大学院工学系研究科 准教授
会話の空気を読み取るAIによるフワキラ空間の構築	坂本 真樹	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授
香りの機能拡張によるヒューメインな社会の実現	東原 和成	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授
ヒューマン嗅覚インタフェースによる香りの再現とその応用	中本 高道	東京工業大学 科学技術創成研究院 教授
スマート健康パッチによる水分マネジメント	西澤 松彦	東北大学 工学研究科 教授
自発・自律型エビデンスに基づくBathing Navigationの実現	早坂 信哉	東京都市大学 人間科学部児童学科 教授
認知症ゼロ社会の実現へ向けた未病検診サービス	村瀬 研也	大阪大学 大学院医学系研究科保健学専攻 教授
新健康指標PAMs：アルクダケで健康管理	八木 康史	大阪大学 産業科学研究所 理事・副学長

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

【探索加速型】

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域

運営統括：橋本 和仁 (国立研究開発法人 物質・材料研究機構 理事長)

重点公募テーマ「『ゲームチェンジングテクノロジー』による低炭素社会の実現」1/2

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
100MHzスイッチング電源用磁心材料開発	佐藤 敏郎	信州大学 学術研究院 工学系 教授
二酸化炭素からの新しいGas-to-Liquid触媒技術	椿 範立	富山大学 大学院理工学研究部 (工学) 教授
CO₂分離機能とエイジング耐性を兼備した多孔性複合膜	Sivaniah Easan	京都大学 高等研究院 教授
低温改質によるC₁化学の低エネルギー化	阿尻 雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授
電場中での低温オンデマンド省エネルギーアンモニア合成	関根 泰	早稲田大学 理工学術院 教授
酸素・窒素を活用したチタン積層造形体の高強靱化	近藤 勝義	大阪大学 接合科学研究所 教授
凍結乾燥POEM法による積層造形用合金粉末の開発	野村 直之	東北大学 大学院工学研究科 准教授
実用的中温動作型水素膜燃料電池の開発	青木 芳尚	北海道大学 大学院工学研究院 准教授
アニオン電池の社会実装を志向した要素技術の開発	津田 哲哉	大阪大学 大学院工学研究科 准教授
SnからなるPbフリーペロブスカイト太陽電池の開発	早瀬 修二	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授
超薄型結晶Si系トリプル接合太陽電池	小長井 誠	東京都市大学 総合研究所 特任教授

JST未来社会創造事業 平成29年度採択課題・プロジェクト

【探索加速型】

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/uploads/project-h29.pdf>

「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域

運営統括：橋本 和仁（国立研究開発法人 物質・材料研究機構 理事長）

重点公募テーマ「『ゲームチェンジングテクノロジー』による低炭素社会の実現」2/2

研究開発課題名	代表者氏名	所属機関・役職
中分子膜輸送強化による発酵技術改革	柘植 丈治	東京工業大学 物質理工学院 准教授
多段階ボトムアップ式構造制御によるセルロースナノファイバーの高度特性発現	齋藤 継之	東京大学 大学院農学生命研究科 准教授
ミルキング法によるバイオ燃料生産の高効率化と安定化	小俣 達男	名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授
弱酸性化海水を用いた微細藻類培養系及び利用系の構築	宮城島 進也	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 教授
雑種強勢の原理解明によるバイオマス技術革新	佐塚 隆志	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 准教授
空気を肥料とする窒素固定植物の創出	藤田 祐一	名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授
細胞表層工学と代謝工学を用いたPEP蓄積シャーシ株の創製	田中 勉	神戸大学 大学院工学研究科 准教授
光駆動ATP再生系によるVmax細胞の創製	原 清敬	静岡県立大学 食品栄養科学部 准教授
複合微生物群集の合理的設計による有機性廃棄物の二次資源化	本田 孝祐	大阪大学 大学院工学研究科 准教授
新規マイクロカプセル化蓄熱材による低炭素社会の実現	鈴木 洋	神戸大学 大学院工学研究科 教授
電気自動車用への走行中直接給電が拓く未来社会	藤本 博志	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授

1) JST 未来社会創造事業 研究開発提案募集について

◆平成30年度公募領域

1. 「超スマート社会の実現」領域（運営統括：前田 章） 【継続1テーマ、新規1テーマ】
2. 「持続可能な社会の実現」領域（運営統括：國枝 秀世） 【継続2テーマ、新規1テーマ】
3. 「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中 健一） 【継続2テーマ、新規1テーマ】
4. 「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域（運営統括：橋本 和仁） 【継続1件】
5. 「共通基盤」領域 【新領域発足。新規1テーマ】

2) 特許法改正（平成30年度）のトピックス

発明の新規性喪失の例外規定の変更

発明の新規性喪失の例外規定の変更（平成30年6月9日施行）

特許法原則：出願前に公開された発明は特許を受けることが出来ない

この規定はあくまで「例外」です。
引き続き発表前のお願いをいたします。
ご相談はURACまで

新規性喪失の例外規定（特許法第30条）：

特定の条件の下で発明を自ら公開した後に特許出願した場合に、先の自らの公開によって発明の新規性が喪失しないものとして取り扱う規定
＜これまでの手続要件＞

- (a) 公開した日から6か月以内に特許出願
- (b) 出願時に発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けようとする旨を記載
- (c) 特許出願の日から30日以内に証明書を提出

平成30年6月9日からの変更内容：

- (a) 公開した日から6か月以内に特許出願
→ 公開した日から1年以内に特許出願

適用：

平成29年12月9日以降に公開された発明で、
平成30年6月9日以降の出願から。

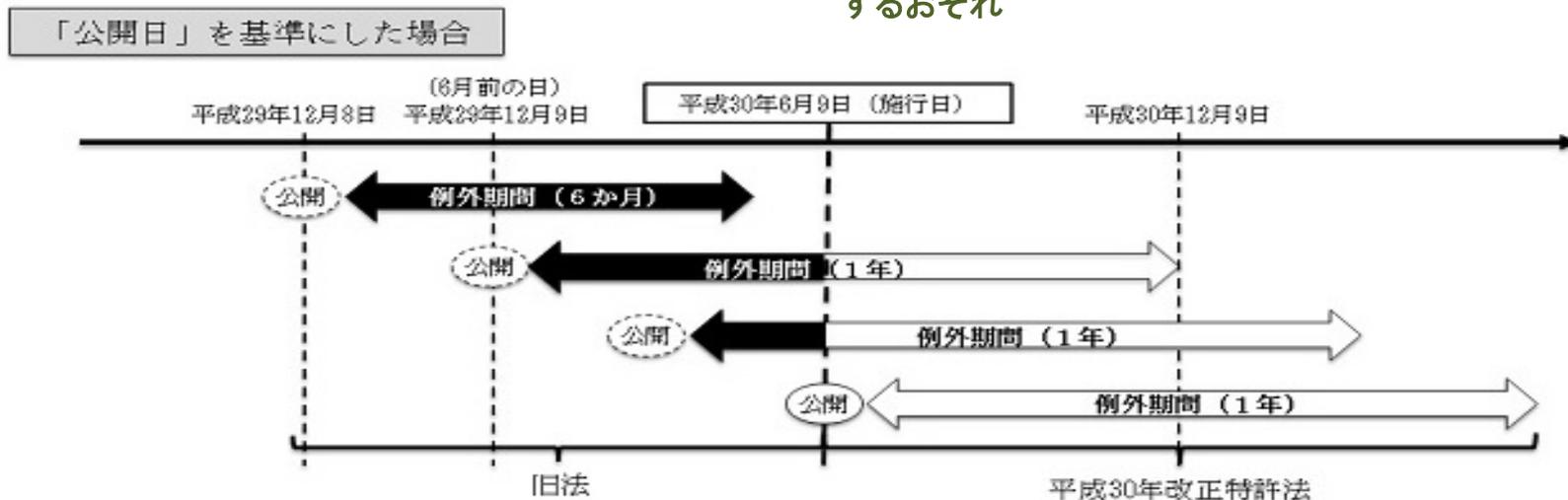
* 例えば平成29年12月25日の発表（公開）内容は
平成30年12月25日まで出願は可能

(注)30条はリスクのある出願

外国での権利化に制限

- 大学単独出願の場合、JSTの外国出願支援は申請対象外
- 認められない国も多く、出願できる国に限られる

学会発表と特許出願するまでの間に他人が関連出願をするおそれ



※公開日：発明が公開された日

※例外期間：特許出願がこの期間内であれば、第30条第1項又は第2項の適用を受けることができる。

今後もURACでは、公募情報等をHPで発信します。

本学TOPページ→研究・産官学連携 研究ポータルサイト内のニュース
に外部からも確認できるように掲載。

ご清聴ありがとうございました

内線 7273

urac@ml.tuat.ac.jp

先端産学連携研究推進センター

University Research Administration Center (URAC)